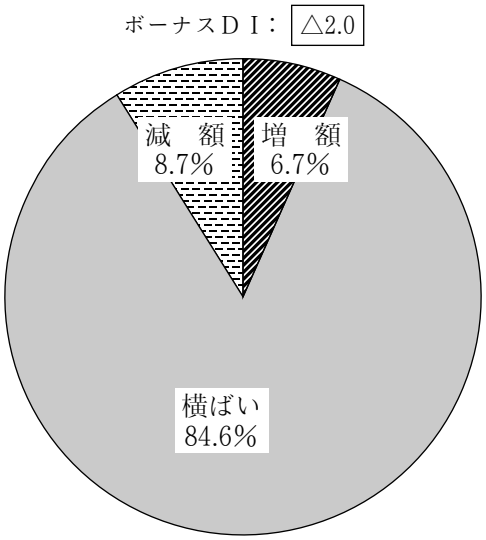
2019.6
No.197

調査レポート

2019年夏季
県内民間ボーナス支給見通し

－ ボーナスＤＩは 13 期ぶりのマイナス －

夏季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第 86 回県内企業経営動向調査」から

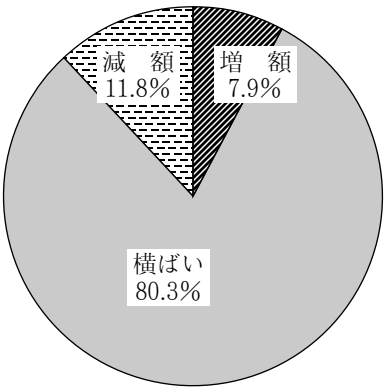
山梨中央銀行

当行の第 86 回県内企業経営動向調査（4 月上旬実施、回答企業 304 社）によると、今夏のボーナス支給予定額は、昨夏の支給額に対して「増額」回答先割合が 6.7%（昨夏調査 12.5%）、「横ばい」回答先割合が 84.6%（同 83.1%）、「減額」回答先割合が 8.7%（同 4.4%）となった。この結果、夏季のボーナスＤＩ（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は△ 2.0 と、昨夏（8.1）と比べて 10.1 ポイント低下し、13 期ぶりのマイナス（「減額」超）となった。

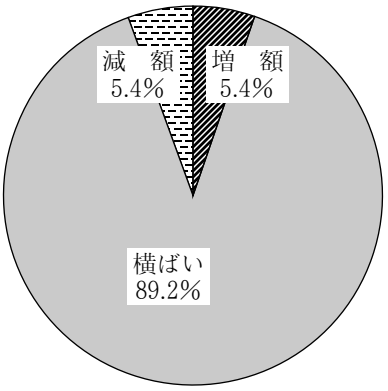
今回実施した企業経営動向調査によると、2018 年度下期の業況は、非製造業に持ち直しの動きがみられた一方、製造業では、米中貿易摩擦に伴う外需の落ち込みなどから本県の主力産業である機械工業に減速感が広がったほか、地場産業も回復の遅れがみられた。一方、2019 年度上期の業況見通しについて、製造業では厳しい見方が続く反面、改元を挟んだ大型連休効果や季節要因などから、オンシーズンを迎える観光関連産業を中心に非製造業で先行きに対す

夏季民間ボーナス支給見通し

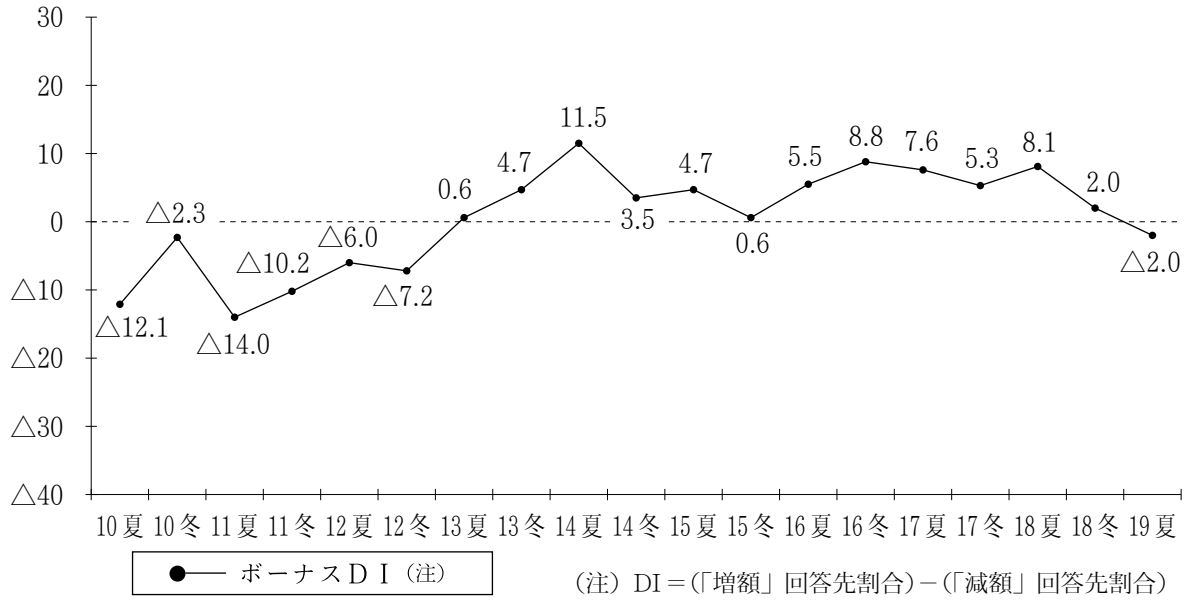
（製造業）　ボーナスＤＩ：△3.9



（非製造業）ボーナスＤＩ：0.0



ボーナスＤＩの推移（全産業）



（注）DI＝（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

る期待感が窺われるなど、基調は弱いものの全体としては好転を見込んでいる。

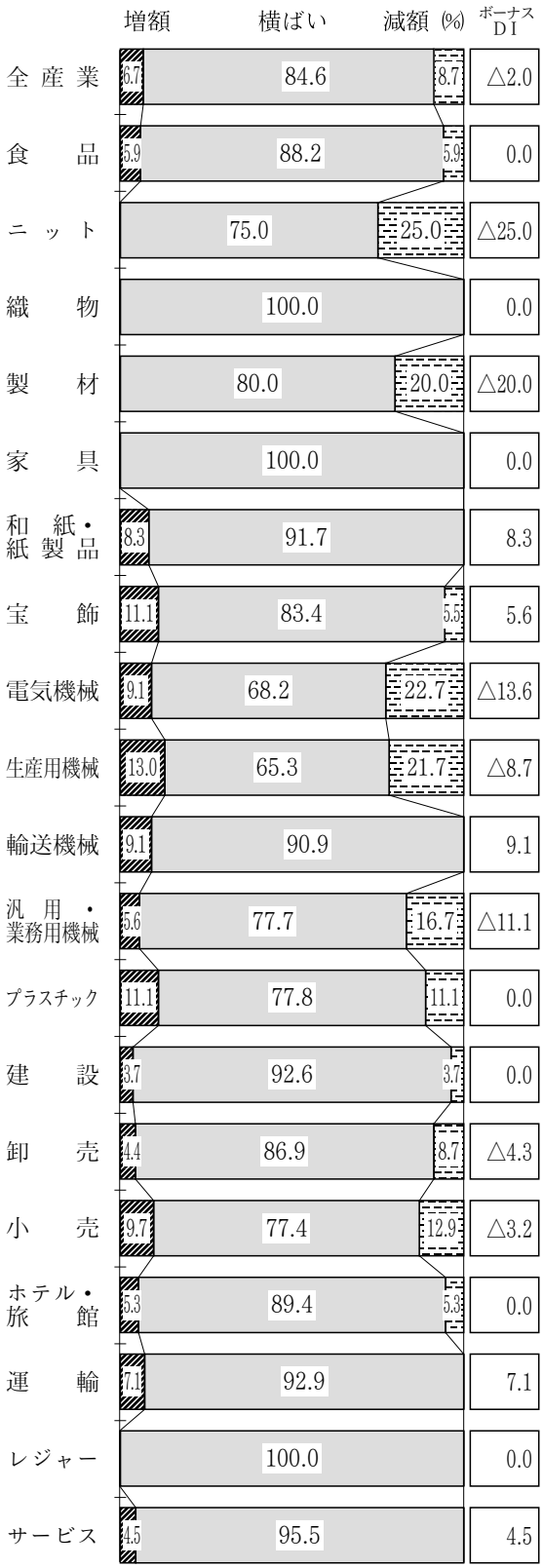
また、同調査における雇用の充足度をみると、「不足」と回答した先が5期連続で4割超となり、県内企業の人手不足感の強さを裏付ける結果となった。今後の対策では、「正社員の採用」と回答した先が約4割で最多となるなど、引き続き正規雇用で人材確保を図ろうとする動きが窺われる。経営上の問題点をみても、「労働力不足」、「従業員の高齢化」、「人材・技術不足」が引き続き上位3項目を占めており、人手不足への対応に苦慮している状況が窺われる。

このように、企業の景況感は厳しさを増したものの、先行きへの期待感や雇用情勢の逼迫がボーナス支給見通しに反映され、ボーナスＤＩは小幅なマイナス（「減額」超）に止まったものと考えられる。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が7.9%（昨夏15.3%）、「減額」回答先割合が11.8%（同5.1%）となった。この結果、ボーナスＤＩは△3.9と、昨夏（10.2）と比べて14.1ポイント低下し、7期ぶりに「減額」超に転じた。このうち機械関連では、輸送機械が「増額」超となった一方、電気、汎用・業務用、生産用の各機械は「減額」超となった。その他の業種では、和紙・紙製品、宝飾が「増額」超となった一方、ニット、製材は「減額」超となった。

非製造業は、「増額」回答先割合が5.4%（昨夏9.4%）、「減額」回答先割合が5.4%（同3.6%）となった。この結果、ボーナスＤＩは昨夏（5.8）と比べて5.8ポイント低下し0.0となり、「増額」先と「減額」先が同数となった。業種別にみると、運輸、サービスが「増額」超となった一方、卸売、小売は「減額」超となった。

夏季民間ボーナスの業種別支給見通し



詳しくは山梨中央銀行の窓口または担当者にお問い合わせください。

● 発行／山梨中央銀行
● 編集/山梨中銀経営コンサルティング　〒400-0031 甲府市丸の内一丁目 20 番 8 号 TEL（055）224－1032
山梨中央銀行 URL：https://www.yamanashibank.co.jp/

世界遺産
美しい富士山を未来へ